

* スチール缶の再生。集まったスチール缶は、プレスでつぶしたり、シュレダターで細く刻んで電炉メカに運ばれ、電炉メカでは容解、精錬し建築・土木資材などに使われる鋼材を作ります。
スチール缶のリサイクルでは、エネルギーを65%、大気汚染物質85%、水質汚濁物質76%削減することができます。

() プラスチックのリサイクル

プラスチックは軽くて丈夫、腐る事なく着色も簡単、成型も簡単など優れた性質をもち利用範囲は大変広い。しかしゴミとなったとき、処理が大変難しい物質でもあります。プラスチックを燃やせば、高温となって焼却炉をいため、また有害ガスも発生します。塩素を含むポリ塩化ビニルなどを燃やすと、猛毒のダイオキシンを発生させます。

* 種類が多いプラスチックの基本的な性質からの分類

基本的性質	基本的性質の特徴
熱可塑性プラスチック (生産量の85%占める)	熱を加えると柔らかくなり、冷えると固まる性質を有しており、レジ袋や灯油のポリ缶などのポリエチレン、卵パック、プランターなどのポリ塩化ビニル、洗面器・ホース等のプロピレンがあります。
熱硬化性プラスチック	成型すると熱を加えても柔らかくならず、マットレス・クッションなどポリウレタン、食器などのメラミン樹脂などがあります。

* プラスチックのリサイクルの実践を積極的に推進しましょう。

ペットボトルは回収しリサイクルすればカーペットや洋服に生まれ変わります。

魚や肉の発砲スチロールトレイは、回収すれば再び発砲スチロールに再生することができます。

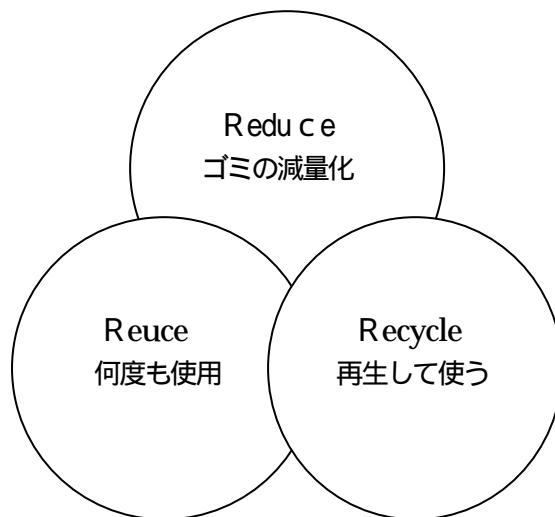
() 生ごみを堆肥にしよう。ゴミの3分の1は、台所から出る生ゴミ。生ゴミは燃えるゴミとして清掃工場で焼却処理されていますが、ゴミの急激な増加に対処できず、一部は埋め立てられている所もあります。

* さいたま市では、家庭の燃えるゴミの約6割を占める生ごみの減量化をするため電気式生ごみ処理機の購入費の一部を補助しています。大いに活用して生ゴミ減量を実践しましょう。(詳細は区に)

() リサイクル社会を目指して

考えよう3つのRについて。大量に物をつくり、大量に消費して、大量にゴミを吐き出す事によって、地球を破棄し、人間の生存も危なくしています。もう大量生産、大量消費の社会は、豊かな生活実現にならないことが分ってきました。リサイクルを基本とした社会こそ、人類が持続的に発展できる社会です。

リサイクル社会構築のキーワードは「3つのR」



さいたま市のゴミ処理費 総計170億円の内訳 * 管理部門等経費6億円(3%) 平成20年度
* ゴミ収集経費 68億 中間処理経費 78億円 資源化経費 11億円 最終処分費 7億円
(40%) (46%) (7%) (4%)

これら全ては、私たちの税金で賄われていることを、肝に銘じてゴミ問題を考えて行きましょう!